

学校経営方針

- (1) 奥出雲町唯一の高等学校として、生徒・保護者のニーズおよび地域の期待に応え、地域から信頼される魅力ある学校づくりを推進する。
 (2) 社会の変化を受け止め、地域と協働しながら、地域の原動力となる「開かれた学校」を推進し、「チーム横高」としての組織力を高める。

重点目標	分掌・学年部の目標	目標達成のための具体策	評価指標(アンケート結果) 肯定的評価割合(%)	自己評価及び改善策	学校関係者(学校評議員)評価・意見
人権教育の推進 思いやりの心の涵養	○人権意識の高揚 ○安全安心な環境づくり ○自他を大切にすることを心の醸成	○人権学習 LHR・講演会 ○日々の生徒への声掛け ○学年集会 ○ SNS についての指導・情報モラル講演会 ○校内教職員研修	「人権の保障、安全・安心な学校・学級」 生徒 B (82) 保護者 B (87) 教職員 A (97)	○教員に見えないところで生徒は人権に関わる不安を持っていることがあると推察される。その不安に対応するため、教員は生徒指導に係る研修を積むことが必要。 ○生活アンケートでは実態が把握ができない場合もあるため、中学校からの引き継ぎを確実に。○ Peace Action により、生徒間トラブルの解消に努めた。	○「人権の保障、安全・安心な学校・学級」の生徒評価が 100 になるよう努力を続けてほしい。とりわけ、県外生の「家」である寄宿舎においての達成を望む。 ○コロナ禍の中で、寮に暮らす県外生には特に不安があったと思われる。感染の終息時期は未だ定かでない。今後も継続して寮生のケアをしていただきたい。 ○横田高校卒の県外生ネットワークを構築して、寮生をサポートする仕組みを考えてほしい。 ○生徒から気持ちよい挨拶が来客に対して行われている。
	○いじめの早期発見及び早期解決	○生活アンケート ○ Peace Action ○解決策の実施	「生徒への人権的配慮」 教職員 A (100)	○生徒からの相談や教員の気づきがあったものについては、担任・学年会・生徒指導部・保健部が連携して対応した。相談先は担任だけでなく、すべての教員であること、学校以外の相談先 (SC や外部機関) についても生徒及び保護者に「紙」「電子」媒体にてお知らせする。	
	○教育相談の充実	○スクールカウンセラー(SC) ○養護教諭・担任・学年主任によるカウンセリング	「教育相談の充実」 生徒 B (80) 保護者 C (76) 教職員 A (97)	○「挨拶・端正な身だしなみ」については、外部からも評価を頂いている。マスク着用については、感染症罹患防止の点でも指導を続ける。	
	○規律ある態度の育成	○生活時間調査 ○服装頭髪検査 ○日々の生徒への声掛け ○学年集会	「ふるまい、身だしなみ」 生徒 A (94) 保護者 A (93)	○「社会で必要とされる知識や常識」を身につけさせることを目標に、教科書及び教科書以外の学習を家庭学習に求めたい。 ○生徒個々の進路目標に応じた学習の取り組みが必要という意識が醸成される指導を行っていく。	
知性や感性の醸成	○基本的な生活習慣の確立 ○学習習慣の確立	○生活時間調査 ○日々の生徒への声掛け ○担任面談	「計画的な日常生活習慣の育成」 教職員 C (77) 「基本的な生活習慣及び学習習慣確立」 生徒 C (73) 保護者 D (66) 『平日学習時間目標』 4月 9月 60分以上 90% A (98) B (83) 120分以上 50% C (79) D (42)	○「社会で必要とされる知識や常識」を身につけさせることを目標に、教科書及び教科書以外の学習を家庭学習に求めたい。 ○生徒個々の進路目標に応じた学習の取り組みが必要という意識が醸成される指導を行っていく。	○教員が授業開始に間に合わず教室に入る場合があると聞く。外部との電話対応など急を要することもあるとは思うが、極力時間厳守で授業を始めるようすべき。 ○新型コロナウイルス感染症や大雪などによる臨時休業に備え、リモート授業等の設備及び指導の準備をすべき。寮にも WiFi を整備し、授業以外の学習にも対応できるようにすべき。
	○学力向上 ・基礎基本の徹底 ・思考力・判断力・表現力の育成	○授業評価アンケート ○授業公開 ○他校授業参観 ○定期試験前講座 ○習熟度別指導 ○少人数指導 ○主体的対話的で深い学びの提供 ○添削指導	「授業への生徒の取り組み」 生徒 A (94) 「授業の充実度」 生徒 B (86) 保護者 C (78) 「教員の学力伸長力」 教職員 A (90) <生徒による授業評価> 「生徒自身の取り組み」 A (97) 「教員の授業の進め方」 A (96)	○授業に対話的な学習を取り入れる等、教科担当者は学習指導に様々な工夫を取り入れることに努めている。その工夫を教科全体で共有し、学校全体の授業力向上につなげたい。 ○学習内容が生徒に定着するよう評価方法についても工夫を行う。	
地域に貢献できる人材育成	○自主的な学習への誘い	○ハイスクールプロジェクト ○マイプロジェクト ○「奥まな」	「地域の魅力・課題の理解」 生徒 A (91) 「自発的な学習と協働」 生徒 A (92) 「主体的・協働的姿勢の育成」 教職員 B (84)	○コロナ禍のため各種活動は制限されたが、必要な学習活動は展開できたと考える。この取り組みが広く認識されるよう広報に努めたい。	○「奥出雲学」で学習している内容は義務教育でも行っている。高校ではその学習内容を深めるようにしてほしい。 ○教員定数減が進行する状況だが、「だんだんカンパニー」を吸収し来年度から再スタートする「奥出雲学」によって、学校の魅力が増すよう努力を望む。 ○社会に出る前に、食事マナーや化粧についての学習も必要に思う。
自己実現の支援	○「総合的な探究の時間」の充実 △地域活動ファンクラブ活動の充実	○「奥出雲学」 △だんだんカンパニー ・製造販売活動 ・地域課題解決研究 ・ICT 利用の講演会・アンケート △ボランティア	「進路指導の充実」 生徒 B (88) 保護者 B (84) 教職員 A (94) 「進路について考えたか」 生徒 A (92) (1年 84.2年 93.3年 99)	○就職・進学について、概ね生徒の希望を叶えることができた。3年間を見据えた指導を進めたい。 ○共通テスト対策指導を行うことができた。さらに研究を進めたい。 ○キャリアパスポートを活用し、キャリア教育の充実を図りたい。	
	○就職指導の充実・職業観の育成 ○進学指導の充実	○就職・進学の面接指導 ○放課後進学補習 ○土曜講座 ○模擬試験の効果的利用 ○新テスト研究	「施設設備の充実」 教職員 B (84)	○費用対効果・優先度を考え、限られた予算を有効活用したい。	
	○環境整備の推進	○経費の節減と効率的な予算執行			
地域から信頼され期待される学校づくりのための情報発信・情報交換	○情報発信の迅速化	○ホームページ (HP) の充実	保護者 D (59)	○コロナ禍のため中断した行事予定表の HP 掲載を再開させる。	○行事予定の HP 掲載再開を望む。 ○HP の更新頻度を上げるべき。 ○コロナ禍の状況ではあるが、ボランティアで地域に出かけてほしい。 ○地域の伝統文化に触れる取り組みについても考えてほしい。(地域の神楽・田植え囃子等) ○地元二中学校のうち一校については、卒業生の本校入学率が 4 割である。入学率が上昇するよう、学校の魅力を更に高める必要がある。 ○看板部活動であるホッケー部を大切にしつつ、他の部活動も同様にすることが生徒募集に繋がる。 ○活躍している演劇・放送部の魅力を PR し生徒募集につなげるべき。 ○学校生活に対する生徒の充実度を更に高めてほしい。
	○保護者や地域との連携の推進	×学校行事の公開 △PTA 活動 △「奥出雲学」「だんだんカンパニー」での地域との連携	「保護者との連携」 保護者 C (73)	○保護者にとってはコロナ禍により様々な情報が入手困難であった。「紙」「電子」媒体を一層利用し、情報提供に努めていく。	
	○中学生へのアピール ○未来の中学生へのアピール	△オープンハイスクール ×中高合同芸術鑑賞会 ×中学 3 年生に対する留学体験発表会 ×ヒーローショー		○オープンハイスクールは新型コロナウイルス感染症罹患防止対応のため、見学のみの実施ではあったが、「どんな場所か」は中学生に分かってもらったと思われる。	
	○「入学してよかった」という思いの涵養	○全ての教育活動	生徒 B (87) 保護者 B (89) 教職員 B (84)	○学習、行事及び部活動に全力で取り組むことができる場面を創出させていく。	

凡例 1 アンケートの評価 A: 目標達成(肯定的割合 90%以上) B: ほぼ達成(80%~89%) C: 達成までもう一步(70%~79%) D: 達成に至らず(69%以下)
 2 具体策の記号 △: コロナ禍のため、部分的実施に留まったもの ×: コロナ禍のため、中止したもの